

あなたは大丈夫!? 勘違いしやすい分別を再チェックしよう

資源物の中には、すぐに正しい分別が思いつかないものが少なくありません。見た目や思い込み、ちょっとした勘違いで間違った分別をしていることもあります。また、分別を間違えたまま出していると収集日に回収されず、警告シールが貼られて残されることになりかねません。そこで、特に勘違いしやすい分別について、いくつか紹介しますので、チェックしてみてください。

●その他の紙

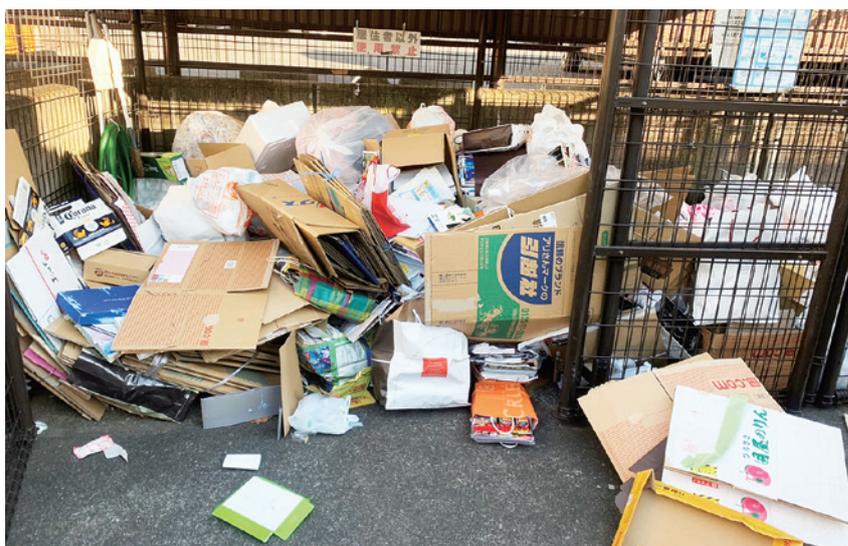
ヨーグルト、アイス、カップ麺の紙製容器などの、においのついた紙は「燃やすごみ」になります。

●ペットボトル

油、ソース、洗剤のボトルは「プラスチック製容器包装」になります。なお、醤油、みりん、酒が入っていたボトル容器は「ペットボトル」に分別します。

●スプレー缶

スプレー缶のキャップ、ノズル部分は「プラスチック製容器包装」になります。ただし、取り外せないものはそのまま出しかまいません。缶の本体は中身を使い切り、「スプレー缶」だけをひとまとめにして出します。



正しく分別されず、ごみと資源物が入り混じって散乱している集積場所の例



分別啓発シールを貼られたごみを取り残された集積場所



ヨーグルト、アイス、カップ麺の紙容器



油、ソースなどの容器



スプレー缶、カセットボンベの缶

レジ袋の有料化と海洋プラスチック、温室効果ガスなどの環境問題との関係

2020年7月からレジ袋の有料化がスタートし、まもなく1年が経ちます。今やスーパーやコンビニでの買い物には、エコバッグやビニール袋を持参する生活が当たり前のようになっています。そこで、レジ袋有料化の意味や成果の状況を見ながら、プラスチックごみと環境問題について、いろいろな角度から考えてみましょう。

レジ袋が有料化になった背景

そもそもレジ袋が有料化されることになった理由は何でしょうか。数年前に話題になった海面を漂うビニール袋、海岸に打ち上げられた大量のプラスチックごみ、ウミガメやクジラの胃から出てきたビニール袋などのニュースを覚えている方も多いかと思います。また、海がプラスチックごみで汚染されるだけでなく、海面を漂うプラスチックが細かく砕かれて微細なマイクロプラスチックとなり、海洋生物に取り込まれ、それを食べることで人体に影響する恐れがあることも話題になりました。

これらが注目された背景には、プラスチック製品を大量に消費する現代の生活スタイルが環境汚染につながっており、さらには石油製品に依存する社会が温室効果ガス増大の原因になっているという考えがあったのです。



プラスチックごみで汚れた海を描いた環境絵日記の作品

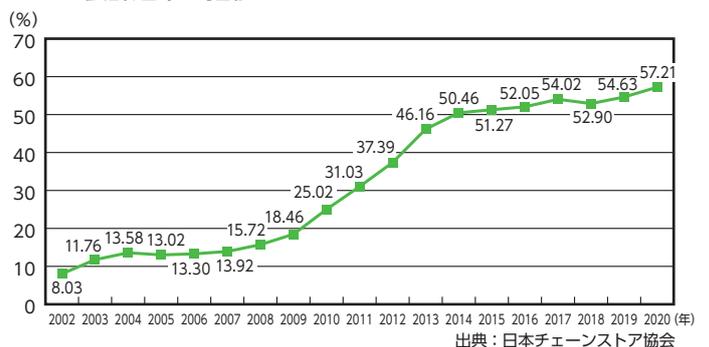


有料化で変わったこと、変わらないこと

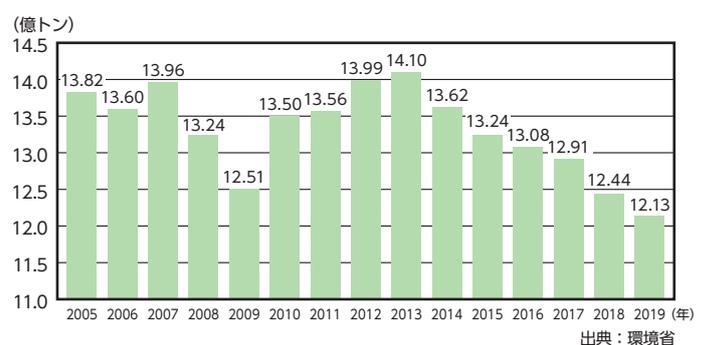
温室効果ガス削減のために、石油製品に頼り過ぎない社会に向かうにはどうしたらよいでしょうか。そこで取り組んだのがレジ袋の有料化です。環境省によると、レジ袋の年間使用量である約300億枚をマイバッグ持参に替れば、1世帯あたり年間58kgのCO₂が削減できるそうです。しかし、これは日本が年間に排出する温室効果ガスの0.2%にしかならず、効果的なCO₂削減策とは言えません。実はレジ袋有料化の目的は、プラスチックごみ問題の啓蒙・啓発であり、人々がビニール袋をはじめとするプラスチック製品に頼った今のライフスタイルを見直すきっかけづくりのための政策なのです。

データを見るとレジ袋の辞退率は、エコバッグがブームとなった2008年以降から増加し、2020年には6割近くになっています。また、環境省のアンケート調査では、2021年4月時点で約8割に達しているそうです。温室効果ガスの排出量は、2011年の東日本大震災の影響で増加しましたが、省エネや再生エネルギーの活用により減少しつつあります。しかし、減少の主な理由は日本経済の低迷によるものだという専門家の意見もあります。

■レジ袋辞退率の推移



■温室効果ガス排出量の推移

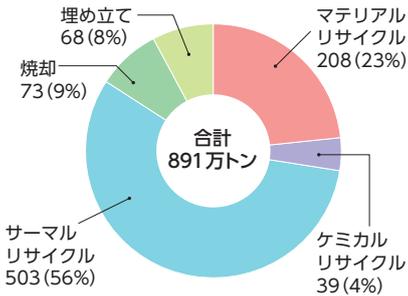


プラスチックごみのリサイクル処理状況

レジ袋の有料化は、プラスチックごみの削減になるはずですが、一方で、店頭でもらえなくなったレジ袋は、百円ショップの売れ筋商品になるほど購入されており、家庭でごみ袋として利用し、捨てられています。では、破棄されたプラスチックごみのリサイクルはどうなっているのでしょうか。

日本のプラスチックごみのリサイクル率は84%で、世界トップクラスだと言われています。しかし、その処理内容は他国とは少し異なり、5割以上が焼却して発生する熱を再利用するサーマルリサイクルが占めています。国際的にはサーマルリサイクルはリサイクルとは見なされておらず、その基準に合わせると日本のリサイクル率は28%になります。

■日本の廃プラスチック処理(2018年)

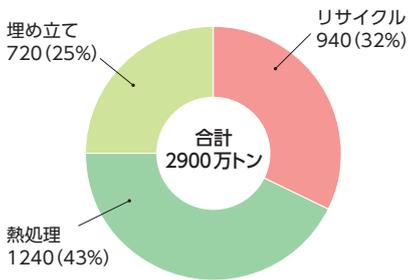


出典：一般社団法人JA共済総合研究所



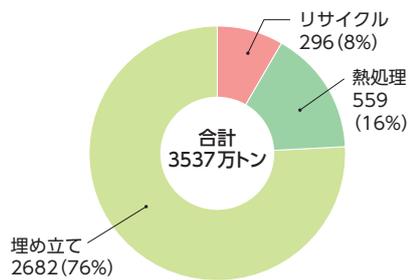
燃やすごみに混入しているプラ類(組成調査)

■欧州の廃プラスチック処理(2018年)



出典：一般社団法人JA共済総合研究所

■米国の廃プラスチック処理(2017年)

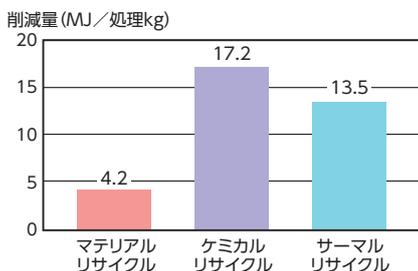


出典：一般社団法人JA共済総合研究所

サーマルリサイクルの環境負荷

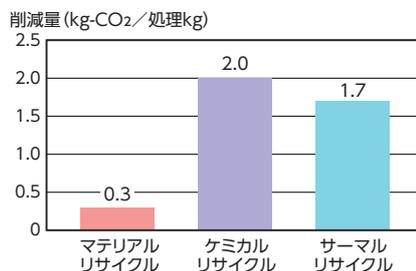
プラスチックごみは、そのまま埋めてしまえば環境負荷が少ないように思えますが、リサイクルしなければ、その分を新たに製造するための資源やエネルギー、CO2排出が必要になります。プラスチックごみの3つのリサイクル法について、リサイクルする場合としない場合の資源・エネルギー消費量、CO2排出量を比較してみると、焼却処理であるサーマルリサイクルも環境負荷の削減に貢献していることがわかります。

■リサイクルによるエネルギー消費削減効果



出典：一般社団法人プラスチック循環利用協会

■リサイクルによるCO2削減効果



出典：一般社団法人プラスチック循環利用協会



「SDGs未来都市・環境絵日記展2021(仮称)」の開催決定!

横浜市資源リサイクル事業協同組合が主催する環境絵日記は、市内の小中学生に夏休みの宿題として、「未来の横浜」について絵と文章で表現する「絵日記」形式で作品を制作していただいています。身近な人や家族と一緒に、自然環境や生活環境について、未来のために何ができるのかを考え、調べ、知っていただくきっかけになるよう活動を続けています。今年で22回目を迎え、これまでの応募作品の累計は23万枚を超えました。昨年度は残

念ながら募集を中止しましたが、今年は市内小学校から『みんなで作るSDGs・未来都市』というテーマで作品を募集します。

今年の『SDGs未来都市・環境絵日記展2021(仮称)』は、11月28日(日)に横浜市役所アトリウムほか、複数の会場で開催し、環境絵日記大賞および優秀特別賞の表彰式を開催する予定です。また、優秀賞(リサイクルデザイン賞)受賞作品を11月22日(月)より、会場等で展示します。



環境絵日記展の様子(2019年)

密に配慮した展示を計画していますので、ぜひ作品をご覧にいらしてください。

横浜市SDGs認証制度「Y-SDGs」スタンダード認証を取得

Y-SDGsとは、市内の事業者が認証制度を活用し、SDGsに取り組むことで持続可能な経営・運営への転換、新たな顧客や取引先の拡大、さらには投資家や金融機関がESG投資等の投融資判断への活用につなげることを目指した横浜市の認証制度です。横浜市資源リサイクル事業協同組合は、この制度に申請してスタンダード認証を取得し、横浜市から認証状をいただきました。

今後も横浜市資源リサイクル事業協同組合はSDGsの推進に努め、持続可能社会の実現に貢献していきます。



Y-SDGs 認証マーク



Y-SDGs 認証状

リサイクル組合の「再生製品」

■コピー用紙 再生PC用紙

古紙配合率70%以上のグリーン購入法適合商品のコピー用紙です。文書や簡単なイラストなどの印刷には十分対応できます。

1 ケース
(1包500枚入・5包)
※A3のみ3包



B5・1ケース	A4・1ケース	B4・1ケース	A3・1ケース
1,900円	2,620円	3,400円	3,120円

●ご注文・お問い合わせ 横浜市資源リサイクル事業協同組合 事務局 TEL：045-444-2531 E-mail：mail@recycledesign.or.jp

リサイクルデザインのバックナンバーは、ホームページからご覧いただけます。

<http://www.recycledesign.or.jp/rd/>

スマホ、タブレットなどはこちらのQRコードからアクセスできます。



リサイクルデザインの発行予定 2021年秋号：9月25日 2021年冬号：12月25日 2022年春号：3月25日 2022年夏号：6月25日

【お詫びと訂正】リサイクルデザイン春号(283号)の表紙記事に掲載したペットボトルのキャップを外す工程写真ですが、その工程自体行っておりません。掲出した写真はペットボトルの選別作業工程で異物を除去している作業写真です。また、鶴見資源化センターで掲出した写真は2か所とも緑資源選別センターのものであります。お詫びして訂正いたします。